

# 佐賀県の地震活動概況 (2018年1月)

平成30年2月7日  
佐賀地方気象台

## 【1月の地震活動概況】

1月に佐賀県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震はありませんでした(12月なし)。また、県内を震源とする地震活動に特段の変化はありませんでした。

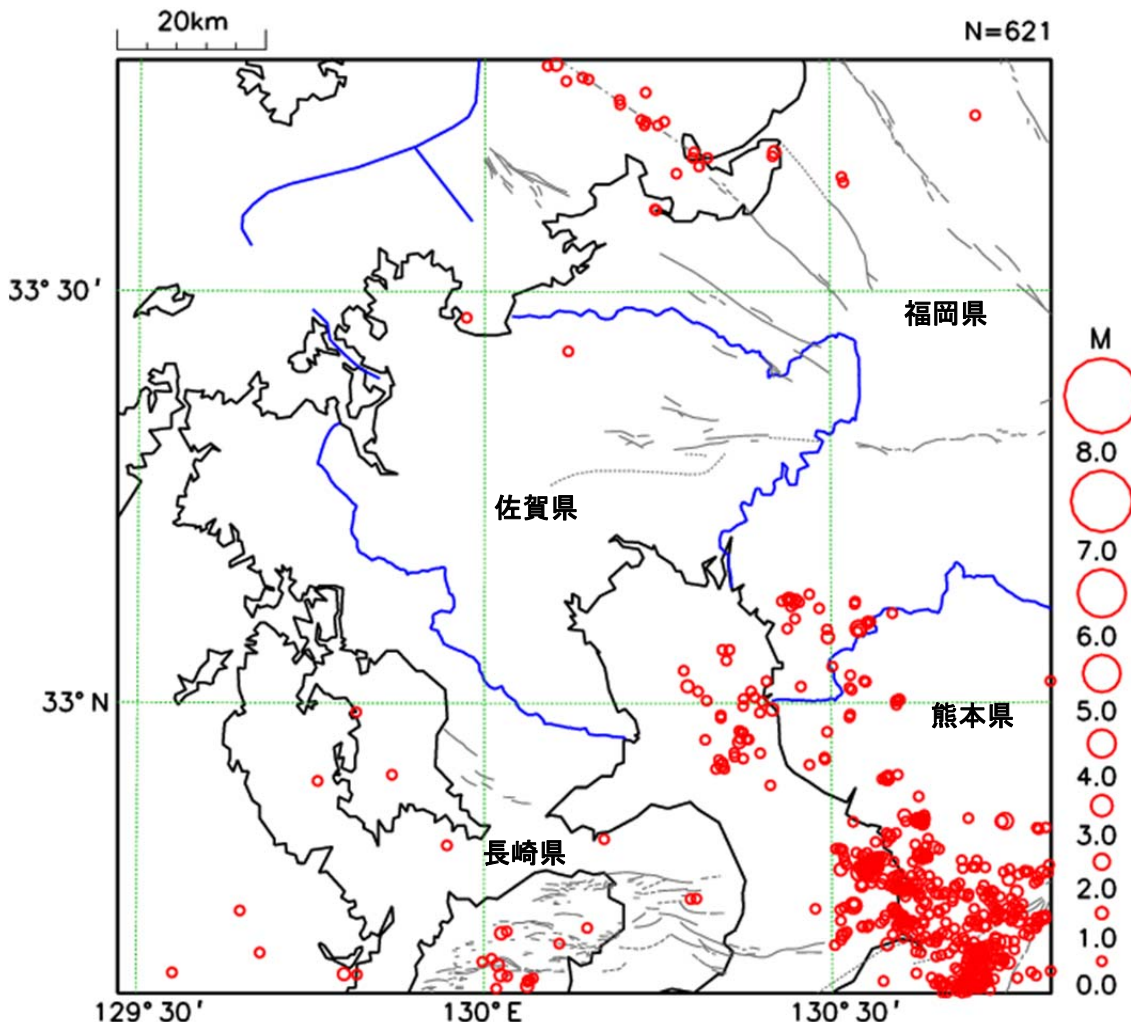


図1 震央分布図 (2018年1月1日~31日、深さ30km以浅)  
灰色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。

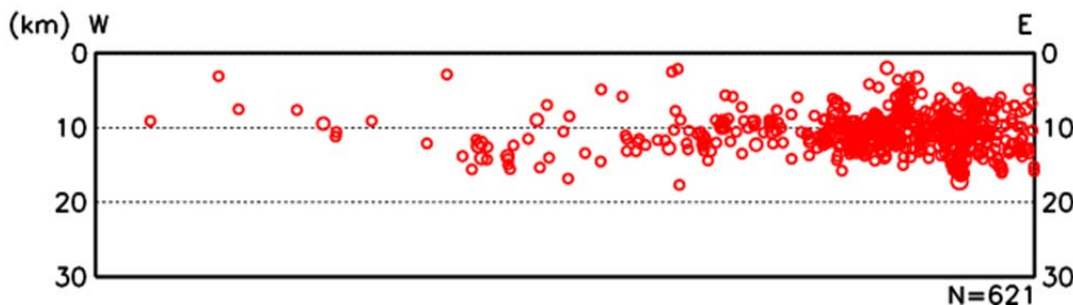


図2 断面図 (2018年1月1日~31日、深さ30km以浅)  
震央分布図を南の方から見た断面図です。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

## 緊急地震速報の特性を理解して地震の揺れに備えよう

緊急地震速報は、地震の発生直後に、各地の揺れの強さ（震度）や揺れの到達時刻を予想し、可能な限り素早くお知らせする情報です。平成19年10月1日09時より一般への提供を開始し、佐賀県にはこれまでに9回の緊急地震速報が発表されました（表1）。

緊急地震速報は、強く揺れる前に身を守ったり、列車の速度を落としたり、エレベータを緊急停止させるなどのために活用されています。しかし、地震波を解析して情報発表するまでに一定の時間（数秒程度）を要するため、内陸の浅い場所で地震が発生した場合など、震源に近い所では原理的に情報発表が強い揺れの到達に間に合いません（図1）。また、複数の地震がほぼ同時に発生した場合などでは、これらの地震波を一つの地震によるものとして解析し、震度を過大に予測することがあります（図2）。

緊急地震速報にはこのような技術的な限界があることを理解した上で、日頃から地震への備えを心がけると共に、緊急地震速報を見聞きした時や強い揺れを感じた時に速やかに身を守れるように、室内の安全な場所を把握しておくことが重要です。

なお、気象庁では、緊急地震速報の技術の向上や運用の改善にあたり、学識者等からなる「緊急地震速報評価・改善検討会」を開催し、運用状況及び内容の評価、適切な利用等のための啓発・広報の方策、発表に係る技術改良方策等の検討を行っています。

表1 佐賀県に発表された緊急地震速報履歴（最大震度は全国最大）

発生日時	震央地名	M	最大震度
平成27年11月14日05時51分30.1秒	薩摩半島西方沖	7.1	4
平成28年04月14日21時26分34.4秒	熊本県熊本地方	6.5	7
平成28年04月14日22時07分35.2秒	熊本県熊本地方	5.8	6弱
平成28年04月15日00時03分46.4秒	熊本県熊本地方	6.4	6強
平成28年04月16日01時25分5.4秒	熊本県熊本地方	7.3	7
平成28年04月16日01時45分55.4秒	熊本県熊本地方	5.9	6弱
平成28年04月16日03時55分53.0秒	熊本県阿蘇地方	5.8	6強
平成28年04月16日04時15分4.5秒	熊本県熊本地方	3.5	3
平成28年04月16日11時29分0.3秒	熊本県阿蘇地方	2.9	3

注：記載されている震源要素については暫定値を用いています。

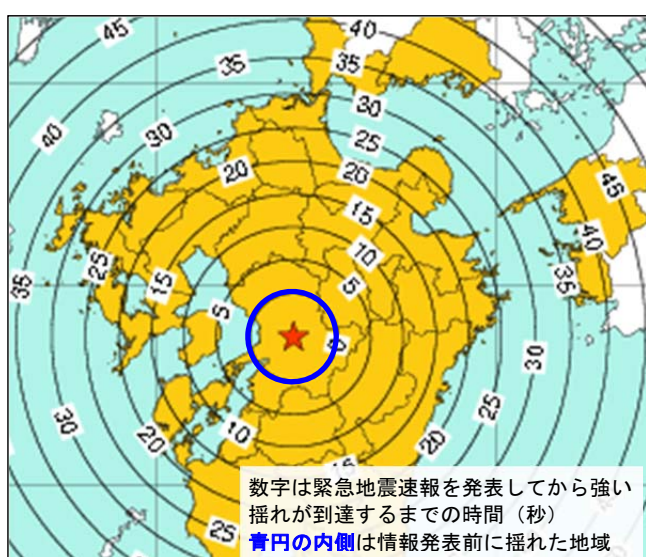


図1 2016年4月14日21時26分  
 「熊本地震」で発表した緊急地震速報  
 （情報発表が強い揺れの到達に間に合わない例）

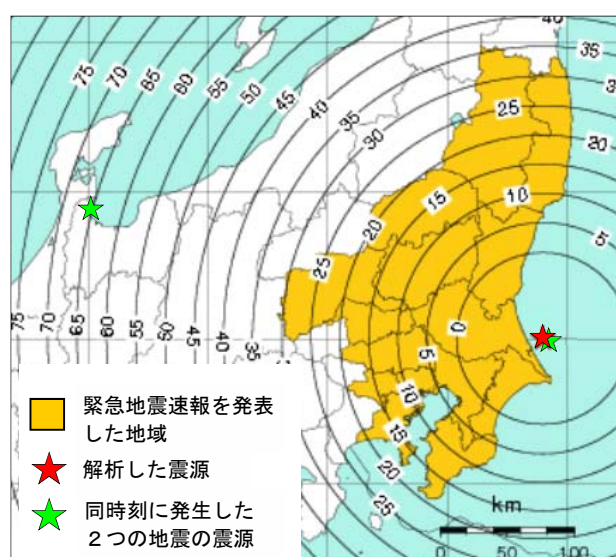


図2 2018年1月5日11時02分  
 関東地方と福島県に発表した緊急地震速報  
 （2つの地震の地震波を同一の地震として解析した例）

緊急地震速報の詳細については、気象庁ホームページをご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/svd/eww/data/nc/shikumi/tokusei.html>